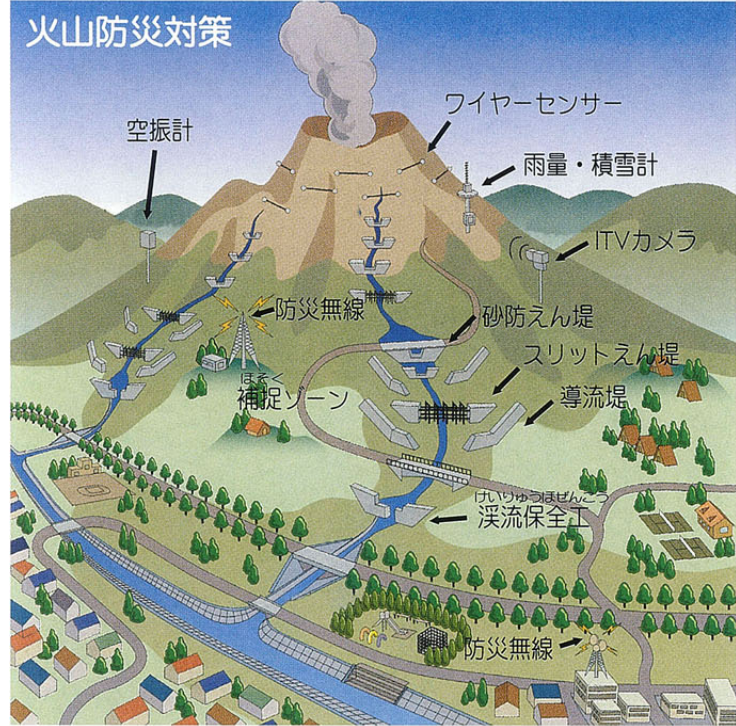
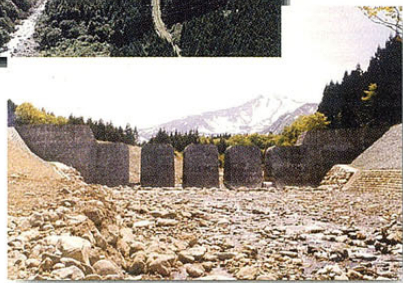


# 7. 鳥海山の火山防災対策

## 火山防災対策



白雪川



鳥越川

### 火山を監視する機器の例



雨量計

監視カメラ

空振計

火山噴火のときに発生する泥流や土石流から人命や財産を守ったり、被害を軽減するために「砂防えん堤」などが建設されます。また、土石流の発生を川の上流で早く検知するための雨量計や監視カメラを設置しています。

## 火山防災のための主な情報入手先

この冊子の他に火山防災について詳しく知りたい方は、次のような情報の入手先があります。

### インターネット

- 日本火山学会  
<http://www.soc.nii.ac.jp/kazan/J/>  
気象庁  
<http://www.jma.go.jp/>  
内閣府 [ 防災情報のページ ]  
<http://www.bousai.go.jp/>  
国土交通省砂防部  
<http://www.mlit.go.jp/river/sabo/index.html>  
消防庁 [ 防災・危機管理eカレッジ ]  
<http://www.e-college.fdma.go.jp/>



### 博物館

- 三松正夫記念館 (北海道)
- 十勝岳火山砂防情報センター (北海道)
- 虻田町立火山科学館 (北海道)
- 秋田駒ヶ岳火山防災ステーション (秋田県)
- 磐梯山噴火記念館 (福島県)
- 浅間火山博物館 (群馬県)
- 立山カルデラ砂防博物館 (富山県)
- 伊豆大島火山博物館 (東京都)
- 阿蘇火山博物館 (熊本県)
- 雲仙普賢岳資料館 (長崎県)
- 桜島国際火山砂防センター (鹿児島県)

### 書籍

- ◆世界の災害の今を知る  
火と土の災害2 火山  
マリ・ヨリ著 宇井忠英・小宮学 監訳  
文溪堂 (小学生高学年以上)
- ◆Q&A火山噴火 日本列島が火を噴いている!  
日本火山学会 編  
講談社ブルーバックス (小学生高学年以上)
- ◆火山はすごい  
鎌田 浩毅 著  
講談社 PHP新書 (中学生以上)
- ◆火山に強くなる本  
下鶴 大輔監修/火山防災用語研究会 編  
山と溪谷社 (中学生以上)
- ◆火山災害  
池谷 浩 著  
中公新書 (一般)
- ◆火山噴火と災害  
宇井忠英 編  
東京大学出版会 (専門書)

## 参考資料 1

### 火山災害とは

火山活動によるさまざまな現象が、地域住民の暮らしに被害(家屋の破壊や田畑が荒れるなど)を与えたり、人命に被害(死者やけが人)がでるような場合に火山災害と呼びます。

無人島で起きる噴火のように、暮らしに影響がない場合には災害とは呼びません。

火山災害は、  
これまでも  
たくさんあったんだ



### 日本の噴火活動事例 (最近の主な噴火による被害・活動)

噴火開始 年月日	火山名	被害・活動の概要
1640(寛永17)7.31	北海道駒ヶ岳	死者700余。岩なだれと津波による
1741(寛保元)8.18	渡島大島	死者1,467名。流出家屋791棟。津波による
1783(天明3)8.5	浅間山	死者1,151名。被害家屋1,242余。火砕流・火山泥流による
1792(寛政4)5.21	雲仙岳(眉山)	死者約15,000名。岩なだれと津波による
1888(明治21)7.15	磐梯山	死者461(477とも)名。岩なだれによる
1900(明治33)7.17	安達太良山	死者72名。負傷者10名。火口の硫黄採掘所が全壊。降灰・噴石による
1902(明治35)8.7~9	伊豆鳥島	死者125名。全島民が死亡
1914(大正3)1.12	桜島	死者53名。負傷者112名。村落埋没。噴石・溶岩流・地震による
1926(大正15)5.24	十勝岳	死者144名。負傷者約200名。火山泥流による
1940(昭和15)7.12	三宅島	死者11名。負傷者20名。全壊・焼失家屋24棟。噴石・溶岩流による
1952(昭和27)9.24	ベネズエラ列岩(明神礁含む)	31名殉職。調査中の第5海洋丸遭難。海底噴火による
1958(昭和33)6.24	阿蘇山	死者12名。負傷者28名。噴石による
1962(昭和37)6.29	十勝岳	死者4名。行方不明者1名。負傷者11名。噴石による
1974(昭和49)	桜島	死者8名。6.17と8.9の土石流による
1974(昭和49)7.28	新潟焼山	死者3名。噴石による
1977(昭和52)8.7	有珠山	死者2名。行方不明者1名。負傷者2名。火山泥流による
1979(昭和54)6月	阿蘇山	死者3名。負傷者11名。
1983(昭和58)10.3	三宅島	被害家屋約400棟。溶岩流による
1986(昭和61)11.15	伊豆大島	全島民約10,000名島外に約1ヶ月避難。溶岩流による
1990(平成2)11.17	雲仙岳	死者・行方不明者44名。負傷者11名。被害家屋2,593棟。最大避難対象人口1,100人。火砕流・土石流・噴石による
1996(平成8)11.21	雌阿蘇岳	噴煙高度は火口上1,000mに達し、降灰が確認
1997(平成9)9.15	安達太良山	死者4名。火山ガス(硫化水素)による
1998(平成10)2月頃	岩手山	地震活動が活発化し、噴火の可能性が示唆された。(噴火せず)9月1日のM6.2地震以降活動を低下させた。
2000(平成12)3.31	有珠山	最大避難人口約16,000名。家屋被災771棟。降灰・噴石による
2000(平成12)6.27	三宅島	全島避難4年5ヶ月。山頂噴火や低温の火砕流が発生。大量の火山ガス放出。
2000(平成12)10月	富士山	やや深部での低周波地震が多発した。(噴火せず)
2004(平成16)9.1	浅間山	21年ぶりの爆発により、噴石・降灰を噴出した。

気象庁「日本活火山総覧(第3版)」・島原市HP・国土交通省HPより作成